

ふれあい・コンタクト

動物と出会い、人と触れ合って心のときめきをコーディネートするために

円山動物園ボランティア会
代表世話役 竹尾 昌己

ニュースレター

<ボランティア会 表彰される!!>

7月9日、北海道博物館協会の創立50周年記念・第49回北海道博物館大会（北海道開拓記念館）に於いて、札幌市円山動物園ボランティア会が表彰されました。推薦者は札幌市円山動物園で、永年にわたる地道なガイド活動・イベント活動・動物園への協力、そしてニュースレターの発行等が評価されました。これを契機に、これからも入園者に愛される、ガイドボランティアとして頑張りたいと思います。（クマチカ班 竹尾昌己）



<追想（私にとっての『ゴン』ちゃん）>

訃報から半年経った今も、「『ゴン』ちゃんがどこかの動物園で元気に暮らしているのでは？」と思う時があります。私のボランティア活動は『ゴン』ちゃんから始まったも同然でした。その圧倒的な存在感に引き寄せられるように類人猿班（当時）に入り「人間に似た所はあるが心はどうなんだろう？」と思うようになった私は、ある時うっかり彼を驚かせてしまい、その反応が攻撃的というより警告に近かった事や、『メリー』が亡くなった時の悲しみ様を知る中で、ゴリラが見かけによらず繊細な心の持ち主であることを知りました。お陰で私の先入観や意識は変わり、解説にも実感がこもるようになりました。ですから『ゴン』ちゃんは私にとって、とりわけ思い出深い存在なのです。彼に今、人生を訊いたなら「辛い事もあったけど、皆に愛されて幸せだったよ」と言ってくれる気がします。お得意の横目で私達を見守っていてくれる姿はいつまでも忘れません。たくさんの思い出を心から有難う。（やせい班 長谷川広恵）

<『リッキー』のお誕生会>

6月13日、アニマルファミリーを対象に、ライオンの『リッキー』の誕生会が開催されました。『リッキー』は来園して4年、8歳になります。いつもは元気一杯ですが、この日は暑かったせいか食欲が無く、キーパーさんが用意したお肉をあまり食べませんでした。ファミリーの皆さんからキャットミント（マタタビと同じような効果）と似顔絵のプレゼントを貰い、子供達からは『リッキー』について色々な質問が飛び交うなど、とても楽しい誕生会になりました。本当に『リッキー』は沢山の人の愛されていると思いました。（やせい班 成田 愛）



<ボランティア活動を充実させよう>

ボランティア活動で大切な事は、その活動でいかに心の充足感や満足感が得られているかにあると思います。その為には活動が自分で十分納得出来るものである事と、活動の仲間がお互いに協調し助け合いながら目的達成に向けて努力しているのが実感出来る事だと思います。活動の充実には仲間とのコミュニケーションを怠っては難しいと思いますが、この仲間意識を向上させる一つの方法として毎月の班会議でのあり方が大切ではと思っています。班会議は月一回貴重な時間を取って先輩・後輩が一同に集まる機会なので、単なる事務連絡だけでなく活動をさらに充実させる為の情報交換や勉強会の場としてとらえ活用していく事が重要と考えます。飼育員さんから聞いた貴重な話等を皆で教えあってお互いに共有出来れば、ガイド活動等がさらに楽しくやり易くなるのではと思います。お互いに学び合うとの自覚とその雰囲気作りを図る世話役のリーダーシップにも期待したいと思います。（ふれあい班 小熊 瞳）

<ゼニガタアザラシ『まる』ちゃんの近況。>

5月30日ゼニガタアザラシの『まる』ちゃんの歓迎セレモニーを見に、おたる水族館へ行ってきました。『まる』ちゃんは海獣公園のプールに入れてもらい、目の前でゴマフアザラシと仲良く泳いでいました。ラッキー!! 『まる』ちゃんいつまでも元気ですね。
(ワイルド班 川村登美子)



<ゼニガタアザラシの赤ちゃん『さくらこ』に決定>

6月19日、ゼニガタアザラシの赤ちゃんの命名式があり、『さくらこ』に決まりました。1,220通という大変多くの応募をいただきその中から選考委員が検討した結果、みんなが呼び易く、覚え易いこと、桜の咲く季節に生まれた女の子であること等で選ばれました。
(クマチカ班 竹尾昌己)

<七夕まつり>

7月11日サル山から熱帯動物館へと続く通路にて、恒例の『七夕まつり』が開催されました。この日は家族連れをはじめ、保育園や子供会の団体など多くの方が来園されており、七夕コーナーは朝から人の波が途切れることのないほど大盛況でした。お子さんだけでなく親御さんや若いカップルも「じゃ、書いていこうか」と気軽に参加してくれたのが嬉しかったです。消しゴムで作った動物スタンプも人気で、短冊にくっつも押しつけて喜んでる子もいました。3本の柳に吊るされた短冊を見ると「プリキュアになりたい」「かいじゅうになりたい」というかわいらしいお願いから「志望校合格」「宝くじに当たりますように」といった現実的なものまで実に様々な願いがありました。そして「ゾウさんに会いたい」と書かれた短冊を見たときは胸が熱くなる思いでした。これは円山動物園を愛するみんなの切なる願いですね。どうか皆さんの願いがかないますように。
(ワイルド班 星山美千代)



<札幌盲ろう者福祉協会ツアーガイドに初参加して>

同行ボランティアの方から「手話、口頭で同時通訳しますので要点を確実に、短い間を持ってお願い致します」と。同時通訳の方々のご協力がなければ不可能で、日頃のご活躍、ご努力に頭が下がる思いです。エゾシカの夏・冬毛、熊の毛・ツメに触れていただいた時の喜びには感動しました。「五感でもっと沢山の皆さまに円山Zooを感じ、楽しんでいただけるようガイドの工夫を」と反省。私が手話に興味を持ったのは、ボランティアに参加してすぐ手話で会話をしていたお二人に逢った時からです。只「今日は、ようこそ円山Zooに、どうぞゆっくり楽しんでください」と伝えたかったからです。終了時に「ありがとう、とても楽しかったです」の一言をいただき、私たちの方こそ沢山の学びをいただき一歩前進。ありがとうございました。
(ワイルド班 星原恵子)

<みんなニコニコ『ハーティナイト』>

7月17日園、入園時間終了後にゆっくり動物園を楽しんで頂きたいとの思いから『障がい者夜(17:30~20:00)の動物園特別招待日』を開催、障がいのある方とその家族、介護ボランティアの方々等沢山のご来園を頂きました。早速園内を移動、エゾヒグマ館では、池に放した生魚を『とわ』が飛び込んでくわえると“ウオー”とどよめきが起こり皆感激!!今年4月生まれのゼニガタアザラシ『さくらこ』が親の真似をして、魚を飲み込む姿に皆さん「カワイー」を連発。シンリンオオカミの赤ちゃん(5月生まれ)の親子の愛らしい動作にも、又々「カワイー」の声!声!でした。そのころチンパンジー館はもう就寝中。午後5時頃寝て朝5時頃起きるのだそうです。「誰もいない動物園で、こんなにゆっくりと動物を見る事が出来て本当に有り難く楽しかったです」との声を何人もの方から頂きました。園の『おもてなしの心』が強く感じられた一日でした。
(ワイルド班 水戸久仁子)



Q プロフィール？

昭和53年生まれの旭川出身の獣医さんです。動物管理センターを経て、平成21年より円山動物園に勤務。幼少期には旭山動物園によく見に行っていたそうです。ご家族と5匹の猫達の頼もしいお父さんです。

**Q 獣医になられた動機は？**

実家では犬と猫7匹を飼っていたので、病気になると高額の治療費がかかってしまうので、自分が治してやったほうが良いと目指しました。心優しき方です。

Q 野生動物を治療する事の難しさは？

人の手に慣れていない為、動物自身が治療によって強いストレスを受けたり、暴れて怪我をすることもあります。もちろん治療する人間側も、怪我をする事もありますので気が抜けません。また、野生動物の病気については、犬や猫ほど研究が進んでいる訳ではない為、病気の診断も難しいと感じています。最近、骨折したエゾユキウサギが保護されて持ち込まれて治療中です。うさぎの骨はもろく骨折しやすく、成長期でもあった為難しいです。野生には戻せない個体ですので、将来は子供動物園での繁殖を考えています。キリンの『ナナコ』は前足の伸びた蹄の故障により、館内で経過を診ています。麻酔をかける事で長く座り続けていると、呼吸困難を起こしやすいため、非常に難しく命にも関わってきます。飼育されている全ての動物を診なければならないので、時間が足りません。飼育員さんは少しの変化も見逃さず、1つ1つの動物への観察の深さと情熱にはかないません。

Q 母親のいない『レディ』は怪我が多いように思いますが？

去年はチンパンジーの『レディ』より『トニー』や『チャコ』の方が、手術の回数は多かったです。

Q 繁殖・種の保存について？

ホッキョクグマ・ユキヒョウ・アムールトラ等絶滅危惧種になっている個体はペアリングしてから生まれてくる迄の環境造りが難しく大切です。生まれてきたホッキョクグマの赤ちゃんを見る為に、大勢のお客さんに来て頂きましたが、ゆっくりと見てもらえなく残念に思うこともありました。

Q 動物病院では何か新しい研究をされていますか？

貴重な動物たちの種の保存も必要で、京都大学霊長類研究所との共同研究をしていく予定です。研究対象としてニホンザルの人工授精を行う為、生殖細胞（精子や卵子）の凍結保存をします。人工授精の研究を始めた獣医もいます。

取材中に緊急連絡が入り、足早に獣舎へ向かわれました。お忙しい中、本当に有難うございました。

(ワイルド班 田中一江)

< 『アースディEZO』が開催されました >

5月23日アースディのイベントが開催されました。当日は食品の販売や体験コーナーがあり、その中で『北の海獣談話会』に参加しました。最初はスライドを見ながら楽しい話でしたが、ダイバーの方の話は深刻でした。荷造りひもが首に巻きついたトドの写真や、カムイ岬に100頭程上陸していたトドは今はゼロ。魚網を破って魚を食べる為1958年以来有害獣とされ約3万頭が駆除されました。駆除が始まって漁獲量は減り続け、誰がトドを殺しているかはわからないがその時期はイカ漁の時期と一致するとの事でした。最後に日本オオカミ協会の方からエゾシカの駆除は限界。オオカミの復活と導入を求める署名運動をしているとの事でした。トドをこの世から無くさないために、私たちに何が出来るか考えさせられる一日でした。

(やせい班 加藤啓子)

< ゴリラ8頭に感激 >

6月27日、ふらりと東京の上野動物園に行ってきました。入園料は65歳以上が300円です。園内は東園と西園に分かれており、歩いても行けますがモノレール（大人150円）が1分半で結んでいます。円山動物園にはいない珍しいナマケモノ・オオアリクイ・シロサイ・コビトカバ・ヤマアラシ・カピバラ・バイソン・ハシビロコウなどをのんびりと観察しました。感激したのはニシローランドゴリラが赤ちゃんを含め8頭も見られたことです。又、アジアゾウは4頭もいました。ゾウが早く円山動物園に来ると良いですね。白い帽子に黄色いユニホームを着た東京動物園ボランティアーズの方と、親しくガイドについて談笑できたのも嬉しい思い出になりました。

(クマチカ班 竹尾昌己)



＜こども動物園の新アイドル＞

こんにちは！リスザルの『メイ』です。男の子？女の子？と聞かれてもまだわからないくらい、ちっちゃいです(体重180g)。実は5月29日の朝、お母さんの死を知らずに背中しがみついていた所を、飼育員さんに保護され人工哺育で育ちました。育てのお母さんは中居飼育員さん。一人ぼっちになって悲しかったけれど、つきっきりで見守ってくれたんだ。中居ママが忙しい時はいつもカピバラ君のぬいぐるみにしがみついている、一人でお留守番しているよ。だってお母さんの背中みたいで安心するんだもん。今ではミルクの他にバナナやブドウ、リンゴも食べれるようになったよ。天気の良い日は外に出て日光浴しているから会いに来てね。



(ふれあい班 松山幸子)



＜『ドン』お誕生会＞

7月11日、アニマルファミリーの皆さんとのカバ『ドン』の41歳のお誕生会。自然界のカバの寿命は35歳位とか。円山動物園の動物の多くがたいへん長寿です。これも飼育員さん始め、スタッフの努力の賜物！来園者のお客さんも、君に会いに来るのを楽しみにしている方々が、沢山いますよ。いつまでも元気で長生き！万歳、円山動物園。

(ワイルド班 鈴木文夫)

= 投函コーナー =



『弟路郎』『レンボー』に待望の男の子誕生。

吉田キーパーさん、毎日ハラハラ・ドキドキ。

(ワイルド班 田中一江)

*サル山にも、モンスター母さんがいた〜!! *

5月のある朝食時『ちょう太』のおいたがひどいので、温厚な『中松』ボスの堪忍袋の緒が切れ、しかっていたところ「なんでめんこいの『ちょう太』をいじめるの」と、食って掛かる理不尽なモンスター母さんの出現でした。

(ワイルド班 星原 恵子)

『まる』君、元気でね！

ゼニガタアザラシの『まる』君はおたる水族館に行くことになり、5月23日送る会が開かれました。小樽でも可愛がられてね。

(クマチカ班 山川泰弘)

*今年も登場したね** *

モンキーハウス前に、ひょうたん、フウセンカズラ、インゲン等が植えられました。「ジャックと豆の木」のような奇跡が起きて緑のカーテンになあ〜ね。

(ふれあい班 松山幸子)

待ちに待った赤ちゃん

皆が固唾をのんで見守った『ジェイ』と『キナコ』に待望の赤ちゃん『ルーク』君が誕生!!親の教育を受け、オオカミ舎を元気一杯走り回っています。

(ワイルド班 藤川徳子)

編集後記

すがすがしい北海道の夏も最盛期を向かえ、ビールのおいしい季節となりました。先日、当ボランティア会が博物館協会より活動を評価され、表彰されました。非常に名誉なことと思います。これもひとえに、諸先輩はじめ皆様方の努力の賜物であります。この表彰を糧に今後の活動が益々発展しますよう、祈念いたします。(次回の原稿締め切りは9/16です)

編集スタッフ：松山幸子 高橋しのぶ 小熊 瞳 水戸久仁子 田中一江 星原恵子 大地 淳 田中茂雄 成田 愛
加藤啓子 丹野健治 山川泰弘

編集責任者：鳥山 要 (TEL/FAX 011-621-8022) 佐藤正俊